

No.	12-1-1	場所	中川村 外記島	次世代への継承キーワード
名称	濁水で海のようになった外記島～渡場付近			構造物による減災
災害現象	洪水氾濫			河川 天竜川本川
補足事項				支流

諏訪市 岡谷市 辰野町 箕輪町 南箕輪村 伊那市 高遠町 長谷村 宮田村 駒ヶ根市 飯島町 中川村 大鹿村 松川町 高森町 豊丘村 喬木村 上村 飯田市 南信濃村 清内路村 阿智村 浪合村 平谷村 下條村 阿南町 売木村 天龍村

概要

中川村では手の施しようの無い、大惨状となった。村内の死者 18 人、負傷者 8 人、流出家屋などの被害 314 戸。農林業や道路・橋などの損害も甚大で、全村の耕地面積の約 36%が流出するという大被害であった。

●体験談：当時 中川村中川西中学校 3 年生

この間は、天竜川より中小河川の方が暴れたといっても決して過言ではない。そのすごさは例えようがない。だが堤防を築いてあつてのだから天災というよりほかないだろう。前沢川などは大正十二年や最近の三十二、三年にもはらんしてそのたびに決壊している。では強そうに見えて弱いのか。そうは言い切れない。あきらかに天災だからだ。人間が雨を降らせないようにしたり、押し寄せる濁流を止めようと立ちはだかることはできない。それでは災害は防げないのか。防ぐことはできる。平凡な意見だが、天災なんかにはびくともしない頑丈な堤防を両岸にずっと築くことである。このことはどの川にも言える。もちろん天竜川にだって。しかし、あれほどの水害になると、その可能性は薄い。蛇行しすぎているから、つき当たるごとに決壊してしまう。そこで考えられるのが、ずっと川を直線にしてしまうか、カーブをゆるやかにすることだ。だがこれも不可能か。やっぱり丈夫な堤防が必要かな。
(「濁流の子」より)

記録



外記島から渡場にかけて一面の水は水郷を思わせるものである。

出典	「中川村の災害誌」P.10/「濁流の子」p.77		
備考			

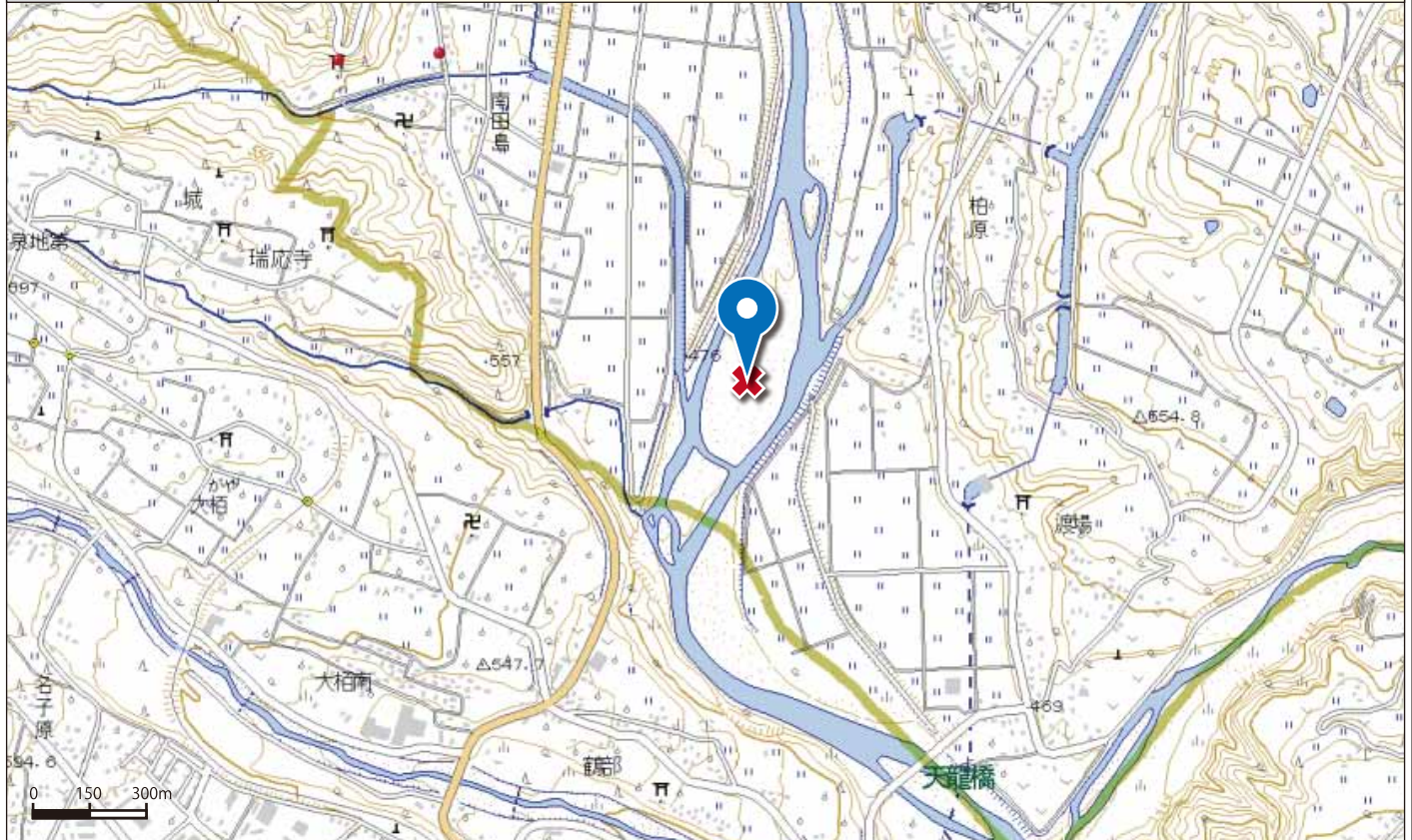
No.	12-1-1	場所	中川村 外記島	緯度	35.612755
-----	--------	----	---------	----	-----------

名称	濁水で海のようになった外記島～渡場付近	経度	137.925346
----	---------------------	----	------------

地図 広域図



地図 詳細図



備考 上記地図に表示されている、黄色の区域は「土砂災害警戒区域」（通称：イエローゾーン）といい、土砂災害のおそれがある区域を指します。また、赤色の区域は、「土砂災害特別警戒区域」（通用：レッドゾーン）といい、土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域を指します。